みみより 38

発行日/2018年8月24日
編集・発行/堺市立健康福祉プラザ
視覚・聴覚障害者センター
聴覚障害者情報提供施設

〒590-0808　堺区旭ヶ丘中町4－3－1
Tel:072-275-5024　Fax:072-243-2222
Mail mimi@sakai-kfp.info

ごあいさつ

宮本　幸

夏の疲れが出る頃かと思いますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

今夏は、6月の大阪北部地震に始まり、7月の西日本豪雨災害、更に異例の進路を辿った台風12号の近畿地方直撃、8月には体温を超える温度まで気温が上昇する猛暑日が続き、自然に関わる様々な不安が尽きない日々でした。

西日本豪雨災害では多くの方の命が奪われました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被災地の一日も早い復旧を願うばかりです。

我が家では普段から災害への備えが大切だと感じ、避難グッズを用意していますが、いざとなると運び出せるか？活用はできるのか？わからないことはたくさんあります。各ご家庭に合った物を準備し、活用方法まで考えておかないといけないですね。

日中は、まだしばらく厳しい暑さが続きそうです。熱中症など、体調にはくれぐれもお気をつけてお過ごしください。

お友達と楽しみました！

○親子クッキング

今年は、小寺先生、藤田先生、原田先生が教えてくださいました♪ 参加は親子2組だったので、それぞれに先生がついて丁寧に教えていただけました。

メインの料理は「鶏むね肉のハム」。むね肉を薄く広げて、自分でコショウをミルで挽いてみたり、肉を丸めてアルミに包んでゆでます。ゆでたあとのスライスには、子どもたちも挑戦。崩れやすいのですが、慎重に包丁を入れてとてもうまくできました。パン・サラダ・スープ、そしてデザートのプリンもついて、楽しい食事でした。小寺先生には料理だけではなく調味料や添加物などの話もたくさんしてくださいました。ありがとうございました。

○工作教室

今年の工作は「パペットつくろう！」。7名のお友達が参加してくれました。

くつ下にダンボールと綿を入れて頭を作り、紙粘土で目や鼻を作って、毛糸で髪の毛を…と思っていましたが、出来上がったのは、写真のような個性豊かなパペットたち。大人の固定観念をはるかに超える、子どもたち発想力に脱帽でした。

それぞれ名前を付けての発表会。左手にパペット、右手は手話でお話しながら、にぎやかな工作教室になりました。

もじサロン
筆談会の部

文字で内容を確認しながら、おしゃべりを楽しむ交流の場です。

7月5日　参加者3名

テーマ「地震」
「夏の思い出」

次回は
9月1日(土)
10月6日(土)
午後2時から4時
2階 研修室にて
事前申込不要です。
毎月開催しています。
お気軽にご参加ください。(担当：芦田・阿部)

みみサロンを開催しました

7月21日(土)みみサロンを開催しました。大阪府北部在住の“ふうちゃん”こと藤岡扶美さんをお呼びしました。近年、ふうちゃんは絵本の読み聞かせや手話うたで多くの方に知られるようになりました。今回はお子さんの参加がいつもより多めで、幅広い年齢層で楽しんでいただけました。

今回は、講演とミニライブの2部制で、まず講演では、手話の出会いから手話うたや絵本の読み聞かせをやるようになった経緯をお話しくださいました。ふうちゃんは、小さい時から「聞こえにくい」と自覚していましたが、手話との出会いはふうちゃんのお子さんがきっかけでした。お子さんが通っていた難聴学級や学校などで、手話は身近な存在となり「手話ってすごい！」と衝撃を受けましたが、手話を自分のものにしたり、自分の状況を受容するには長い時間を要したとのことです。また、小学校での読み聞かせのボランティアや、PTAのあるママさんからお誘いの長い手紙をもらい、手話での絵本の読み聞かせや手話うたをするようになります。やはり、以前は「手話は聞こえない人の言葉」という考えが手話関係者に強くあり、「音楽が楽しめないろう者が多いのに、どうして手話うたをやるの？」などなど、否定的な反応が多くありましたが、ふうちゃんは手話の魅力をどんどん知り、聞こえない人だけではなく様々な人にとって身近な言葉になれば…という思いで「てのひらことば」として多くの人に広めています。

その後のミニライブでの手話表現もとても魅力的で、絵本や手話うたでは言葉にそのまま手話をつけていく(直訳)だけではなく、言葉や歌詞の意味や作家・作詞者の願いを考えながら丁寧に表現を考えていく作業をされていることが伺えました。ふうちゃんが話されるように手話がさまざまな人の「言語」として広まっていくといいですね♪

※講師の藤岡さんが、本を寄贈してくださいました。息子さんが描いたマンガ、「夏がとまらない(ナナロク社・藤岡拓太郎 著)」。ライブラリーに配架しています。

ろうLGBTQサポートブックが新しくなりました！
ビデオライブラリーに置いています！

[難聴]あるある　補聴器編

私の補聴器は、スイッチを入れると「左準備完了！」と、低い声で話しかけてくる(男・女　希望の音声を選べるようになっている)。すごくきれいにはっきり音声が聞こえるのが不思議。

ある日のこと、歩いていると、「現金でっか？」と、大阪弁のおっちゃんが話しかけてくる。周りを見回しても誰もいない。

しばらくしてまた「現金でっか？」と聞こえる。でも、誰もいない……。ん？もしかして、補聴器からの声かな？

再度、「現金でっか？」？？誰かに聞いてもらうこともできないし、クイズのように考えて思いつく。

「電池低下」と言ってるのかな？と、電池交換するとおとなしくなった。

ある人は、「アントニオ猪木が『「元気ですか!?』と行っているように聞こえるらしい。

「電池低下」が、「現金でっか？」・「元気ですか？」。なるほどねえ。

補聴器の機種によって、電源を入れた時に人の声や電子音で「スイッチが入った」ことを知らせる機能を付けられます。今回の「あるある」は、そんな音をめぐっての「聞き違い」でした。

「もじサロン 筆談会」では、難聴者共通の情報交換や、笑い話でも盛り上がります。お気軽にご参加くださいね。

「もしも！」に備えた準備を

センターでは開設時より、聞こえない・聞こえにくい方々が救急受診する際の環境整備につき、さまざまな機関と相談・調整を行ってきました。当事者団体と一緒に作成した「命のカード」、病院への「通訳派遣申込書」の配架、また、そうした取り組みの周知にも努めてきました。

その一環として、今回、西消防署の有志のみなさんと研修会を企画し、8月10日(金)、堺市内の全消防署員を対象とした「集中講義 聴覚障害について」を開催しました。勤務外での自主的な研修の呼びかけにも関わらず、30名以上の方が参加してくださいました。

最初に、センター職員から聴覚障害について基本的な講義をし、いろいろなコミュニケーション方法を体験していただきました。また、聴覚障害があると音がどのように聞こえるのかも体感していただきました。

次に、聴覚障害者が傷病者役になっての想定訓練。実際の装備もしてくださり、「FAX119」が届いてから病院に搬送連絡をするまでの訓練を行いました。ここでは、「手話通訳が必要」という情報を現場に届ける手順も見ることができました。

講義中も熱心にメモを取って学んでくださいましたが、やはり、実際に対応してみるといろいろな課題も出てきました。筆談時の文字の大きさ、提示する場所。音声で話さない聴覚障害者が書いたことを、他の隊員と共有する方法。訓練を担当した方、観察していた方、それぞれから改善提案も出て、とても意義ある研修会でした。

体験することで理解が深まり、課題も見えてきます。「いざ」というときに何が必要なのか、どんな準備をすれば利用しやすいのか。地域の方々も一緒に、今後も取り組んでいきたいと思います。

手話の堪能な救急隊員さんが話しかけてくださるという嬉しい出会いもあり、顔を合わせることで、より強い「つながり」ができると感じました。研修会の会場準備や呼びかけをしてくださった消防署のみなさん、ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

お知らせ

災害時の情報提供に役立つ「アンブルボード」。
さかい聴覚障害者防災ネットワークより、寄贈していただきました！

アンブルボードって何？

- 書いた文字がLEDで光り、はっきり見えます。
- 点滅させることもできるので、注意喚起できます。
- 水性ボードマーカーで書き、ティッシュ等で拭くだけで消せます。
- 蓄電池を使うので、コンセントが不要。持ち運びも簡単です。
- 発光パターンは８種類。場面に合わせて使い分けできます。

「災害時に活用してください」といただいた物ですが、
「いざ」というときに使い方がわからないようではもったいない…と、
行事案内等で日々活用しています。
ネットワークのみなさん、ありがとうございました。

手話奉仕員・通訳者養成講座

手話通訳者養成講座　基本課程

手話講習会、レベルアップ講座は約 3 分の 1 を終えたところですが、10 月からは新規事業の市民向け手話講座が始まります。条例の精神に沿って、本当の意味での市民への手話の広がりを求めて、現在準備中です。

要約筆記者養成講座

基本要約技術を学んでいます

早く入力できなくても、この技術を身につけると、要約力もアップします。難しい勉強ですが、楽しみながら学んでほしいです。

みんなで山を登り切りましょう!!　応援していますよー。

センターの行事

８月２５日(木)　14:00～16:00
「もじサロン」　※事前申込
わいわいおしゃべり会

９月１４日(金)　13:30～16:30
「補聴器相談」　※予約制

９月１５日(土)　14:00～16:00
「みみサロン」　※事前申込
夢と道路交通法

９月２２日(土)　14:00～16:00
「聞こえのセミナー」　※事前申込
音を感じる Ontenna(オンテナ)

１０月１２日(金)　13:30～16:30
「補聴器相談」　※予約制

☆中学生以下の親子企画☆

８月２４日(金)　10:00～11:30
「パントマイム教室」　※事前申込
※ 宿題応援隊：申込日で調整

毎週木曜日 12:30～12:45
ミニ手話講習会「手話っぴぃ」

ビデオライブラリーのおすすめ

「ろうを生きる難聴を生きる
わたしが見た　ろう者の戦争」

聴覚障害のある人たちは、太平洋戦争中、どう生きたのか？難聴のディレクターが、自らの疑問をもとに調査。調べる中で明らかとなった数々の差別。なぜそんな社会だったのか？戦争は何をもたらしたのか？

先輩たちの証言から当時の実情を学んでいきます。

「ろうを生きる難聴を生きる
心で寄り添う医師を目指して　～研修医　吉田翔～」

重度の難聴を抱えて医師の道を選んだ吉田翔さん(32歳)。医師は患者の命を預かるミスの許されない仕事ですが、吉田さんには、コミュニケーションの壁が立ちはだかります。患者の心に寄り添う医師になりたい、その思いで仕事に向き合う吉田さん。研修医として歩み始めた吉田さんの１か月に密着します。

頑張っています 手話通訳・要約筆記登録者

実施済
- 登録者合同研修会　6/23
- 手話通訳者研修会　7/11
- 要約筆記者実技研修会　7/28(PC)

登録者合同研修会　8/23「頚肩腕症候群の予防について」
要約筆記者研修会　9/26「要約技術の演習」
要約筆記者実技研修会(PC) 9/26「ノートテイク」

事業状況

		手話通訳		要約筆記		ライブラリー	
		個人	講演	個人	講演	利用者数	貸出数
6月	派遣数	２３１件	７件	１８件	６件	１５人	４４本
	派遣人数	２４９人	１５人	３４人	１７人	新規登録者：０人	
7月	派遣数	２４４件	１９件	２３件	１５件	３０人	２９本
	派遣人数	２５２人	４８人	４４人	５４人	新規登録者：３人	